

調査研究概要

調査研究概要

I. 事業実施目的

「介護キャリア段位制度」は、介護技術のOJTを通じた人材の育成の仕組みである。本制度を用いた「内部評価」の取組みは、実施者(事業所、評価者(アセッサー)、被評価者(レベル認定者))にさまざまな効果をもたらしていることが、実施者アンケートにおいても示されている(平成26年度「介護職員の資質向上(キャリアパス)におけるスキルの評価等の有効性に関する調査研究事業」)。

今後も、調査結果に示されるような取組みのプラスの効果を引出し、介護人材の育成、介護事業所の質向上につながる有効な方策として活用していくためには、OJT・内部評価の実態を検証し、内部評価推進につながる外部評価の在り方について検討を行うことが求められる。

一連の「内部評価」の取組みを受けての、介護事業所・施設に対する「外部評価」については、これまで実施手法・手順についての整備が進められてきたが、平成26年度の11事例の外部評価実施を介し、新たな課題にも直面した。これらの課題を整理し、そもそもの制度趣旨を達成すべく、その在り方について検討を行うことが求められる(内閣府WG第12回資料5・6参照、平成27年3月26日)。

このため本調査研究事業では、技術評価OJTを通じた人材の育成と事業所の質向上につながるべく、本制度促進に資する、効果的・効率的な外部評価の実施の在り方につき、制度の効果を踏まえつつ、検証及び検討を行った(検討委員会及び外部評価検討ワーキング)。

また内部評価検討ワーキングを設置し、介護技術評価として、特に認知症に係わる技術評価の在り方について検討を行い、具体的な項目を選定し、判定基準案を作成し整理した。さらに現在の技術評価項目につき評価の順序性を検証し、評価効率化にむけた修正案をとりまとめた。また、評価の効率化にむけ、評価基準(期末評価票)に係る着眼点整理も行った。

II. 委員会及びワーキングの設置

本事業では、介護現場の職業能力の評価における知見を有する専門家、識者等で構成される「検討委員会」及び「外部評価検証ワーキング」、「内部評価検証ワーキング」を設置した。

(◎：委員長・座長 敬称略)

【検討委員会及び外部評価検証WG】

	柏木 とき江	一般社団法人日本臨床看護マネジメント学会	副代表
◎	小山 秀夫	兵庫県立大学大学院経営研究科	教授
	田中 雅子	公益社団法人日本介護福祉士会	名誉会長
	筒井 孝子	兵庫県立大学大学院経営研究科	教授
	綱川 晃弘	有限会社HRM・LINKS	代表取締役

馬袋 秀男 「民間事業者の質を高める」一般社団法人全国介護事業者協議会
特別理事

【内部評価検証WG】

植村 康生	社会福祉法人不二健育会 特別養護老人ホームケアポート板橋人材育成室教育担当
大冢賀政昭	国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部 研究員
木村 琢磨	北里大学医学部 総合診療医学・地域総合医療学 准教授・センター長
北浦 正行	武蔵大学客員教授 公益財団法人 日本生産性本部 参事
田中 雅子	公益社団法人 日本介護福祉士会 名誉会長
◎ 筒井 孝子	兵庫県立大学大学院経営研究科 教授
筒井 澄栄	国立障害者リハビリテーションセンター障害福祉研究部 心理実験研究室室長
中村 裕子	株式会社日本ヒューマンヘルスケア研究所 所長
東野 定律	静岡県立大学経営情報学部 准教授

【オブザーバー】

川島 英紀 厚生労働省老健局振興課 課長補佐

Ⅲ. 事業構成

① 検討委員会及び外部評価検証ワーキング（報告書第1部）

介護キャリア段位制度内部評価の取組みの効果を踏まえた上で、外部評価の在り方について、検討委員会及び外部評価検討ワーキングにおいて、検討を行った。

- 内部評価取組み事例ヒアリング(6事業所)
- 内部評価の効果
- 外部評価の実施検証(平成26年度実施11事例)
- 外部評価の在り方の検討
- 外部評価審査員養成状況と外部からの支援の可能性

② 内部評価検証ワーキング（報告書第2部）

介護技術評価項目の検討検証を目的に、内部評価検証ワーキングにおいて、以下についての検討を行った。

- 認知症に係わる介護技術評価項目の妥当性の検証
- 内部評価項目(介護技術評価項目)のデータ分析による順序性の検証